19日本国特許庁(JP)

①特許出顧公告

12 特 許 公 郵 (B2)

昭56-45360

1 Int.Ci.3 H 04 S 7/00 識別記号

庁内整理番号 7346-5 D 7346-5 D

❷❸公告 昭和56年(1981)10月26日

発明の数 1

2

(全7頁)

7

⊗マルチチヤンネル信号のバランスコントロール 装置

214 頤 昭48-144378

砂出 昭48(1973)12月27日

開 昭50-98802 公

(3)昭50(1975)8月6日

個発 眀 者 刑部義雄

横浜市港南区日野町5161の86

⑫発 明 者 石坂幸一

東京都港区高輪4丁目24番28号ソ

ニー高輪寮

@発 明 者 佐藤納夫

横浜市鶴見区鶴見2丁目3番45号

砂出 願 ソニー株式会社

> 東京都品川区北品川6丁目7番35 号

邳代 理 人 弁理士 小池晃

切特許請求の範囲

1 少なくとも2チャンネル信号を夫々伝送し、 上記2チャンネル信号のレベルを相対的に調整す る装置と連動して上記チャンネル信号の伝送時間 が制御されるようにしたことを特徴とするマルチ チヤンネル信号のバランスコントロール装置。 発明の詳細な説明

本発明は、オーデイオアンプにおける各チャン ネル間のレベルを変化させることで、一方のスピ ーカーに近づいて聴取する場合の音像のかたより トロール装置に関するものである。

音声増巾器を使用して得られる立体的再生音場 は、一般に特定の位置に設置されたスピーカー音 の強弱(振巾のちがいと位相の差)によつて原音 現されている。

従来、オーデイオアンプにおけるパランスコン

トロールは第1図の a ないし c に示すように各ス ピーカーにつながるチャンネル間の音声電流の大 きさ(振巾のみ)を変化させることによつて聴取 者の位置を中心として再生音場を形成している。 5 しかし聴取者が、例えば左のスピーカーの近くに 居る時は右のスピーカーの音量を大きく左の音量 を小さくすれば、音像が左のスピーカーに極端に 近づくことはないが、左のスピーカーへの距離が 近くなる結果、左チヤンネルの音は右チャンネル 10 の音より早く耳に到達して音像を乱す事になる欠 点がある。

そとで本発明は音声のレベルの変化のみならず、 同時に各スピーカーと聴取者間の位置によつてき まる音波の時間差を考慮して各スピーカーから放 15 射されるところの出力信号波を相対的に遅延させ るととによつて、より明確な音像を任意の聴取位 置に与えることができるようにしたものである。 即ち、各スピーカーから放射される各信号波を 各スピーカーの設置間隔と聴取位置および音速で 20 きまる所定の時間差だけ、あらかじめ遅延させる ために、各チャンネル間に遅延回路を挿入し、ク ロツク周波数により制御できるように結線する。 以下本発明の実施例を図面について順次説明す る。第2図は本発明の回路の概念図であつて_{て1} 25 τ2はL又はRのチャンネル間に挿入した遅延回 路で電荷転送装置CTDやデイジタルの遅延回路 のようにクロツク周波数にしたがつて決定された 時間だけ遅延時間が変るものである。 ${f F_1}$, ${f F_2}$ は 周波数∫1,∫2を発生するための非安定型マルチ を補正するマルチチャンネル信号のパランスコン 30 パイプレーター回路を基本とした電圧制御による 発振回路である。

この回路において、Lチャンネルの遅延時間を Rチャンネルの遅延時間よりもスピーカー間隔、 聴取位置及び音速で決まる時間だけ大きくすれば 場と同様の音場が聴取者の聴取位置に関係なく再 35 音像は乱れないで良質の再生が得られる。上記遅 延時間を大きくするにはクロツク周波数 f_1 を f_2 よりも小さくすればよい。

図は他実施例の回路図、第5図は4チャンネルス テレオにおける一例のスピーカー配置図、第6図 は他例のスピーカー配置図、第7図は4チャンネ ルステレオの場合の本発明概念図、第8図は他例

6 第10図は第9図の回路における電圧加算の説明 回路図である。

図中 au_1 , au_2 , au_3 , au_4 は遅延回路、 $ext{F}_1$, $ext{F}_2$, F_3 , F_4 はクロツク周波数発振回路、 V_1 , V_2 , の概念図、第9図は本発明の他の実施例の回路図、5 V_3 , V_4 は電圧制御発振回路である。





